

2021. 4. 10

2021年度指導方針・コーチングに関して

監督
谷口 史雄

1. スクールの指導方針

- (1) 基本は全て「生徒の為に」。「何事も安全が最優先」
- (2) 全員参加により、大人が悔しがらず、子供が悔しがらぬ、楽しむ。コーチは楽しめる状況、環境となるように常に意識する。ラグビーを大好きになってもらう。
- (3) 勝つ事为目标とする事は大切であるが、1軍、2軍等を分ける等の勝利至上主義ではない。あくまで全員参加により**全力を出し、仲間と助けあい、勝利を目指す。**
(高学年時に予定されるトーナメント方式によるカップ戦出場は、個別に関係するコーチ間でよく協議して出場を決める)
- (4) 「杉並でラグビーやって良かった、楽しかった。また中学で、そして高校でも続けたい」 →小学部、中学部卒業の時に思ってもらえる事が願いである
- (5) **杉並らしさを常に大事に意識しながら活動する。**

2. コーチングの目的、心得・マナー(順不同)

- (1) 何事も兎に角、安全が最優先
◎「杉並らしさ(別添ご参照)」を常に意識、活動に生かす。
- (2) ラグビーを大好きになってもらい小学部を卒業、中学でも継続、高校以降も続けてもらう。
- (3) 基礎体力、基礎プレーの習得
小学部では中学進学以降の色々な応用にも対応できる基礎体力、基礎プレーを身に付ける。
(基礎プレーとはあくまで試合で活かせるプレー。試合、練習を通じ習得する)
- (4) ラグーマン、ラグールとしてラグビースピリットに基づいた態度、姿勢を習得する
元気な大きな声でグラウンド、コーチ、仲間、保護者、相手チームにも挨拶する、
- (5) 時間を守る(キックオフは絶対に守らなければ、いけない。待ってこない)
社会の基本である常識的なマナーを身に付ける
特に活動時の朝礼MTGは大切な事を話しています。コーチが実践しなければ、生徒には伝えられません
今年も「セット～準備、用意を早くする」事を1年間意識します。
(トップレフリーからのアドバイス) 試合、練習、普段の活動を通じて身に付ける。
- (6) コーチは愛する生徒達の活動の為、グラウンド内外問わずMTG等のコーチ間のコミュニケーションを大事にする。内容、状況によっては、とことん議論する。

(7) 担当するカテゴリの生徒全員にコーチングする（自分の子供だけに褒める、注意するコーチングをしない）。活動中はコーチ⇄生徒（親⇄子供ではない）として接する。注意する場合は状況を考え解決させることがコーチとして最優先することで、単に頭ごなし*に注意することにならないようにする。

*例；なんでできないの、もうやめれば・・・

(8) 2015、2019年のRWCの影響から、生徒数は年々増えている。

今年度はコーチ間のコミュニケーション、コーチングのレベルアップの為、スクール内にルール・レフリング&コーチング部門を新設。

協会主催の基本的なコーチ、レフリー資格の取得、ブラッシュアップ、情報共有に努める

⇒安全面を最優先しながらコーチングする事は責任が生じる→。コーチ資格を有するコーチを増やす、継続させる⇒スクールとしてのコーチングシステムを確立させる。

→資格取得、有効期限の管理、ブラッシュアップの推進、管理を行う。

(9) 杉並区ラグビー協会、都内他ラグビースクールとの連携により、生徒達へ更なるグラウンド等環境の確保、交流試合、大会等の安定的な開催を確立

⇒全ては生徒の為の活動ですが、コーチの方々も生徒へのコーチングを通じラグビーの様々な感動、素晴らしさを体験して頂きたいと思っています。ラグビーを教える事は、大変奥が深く、コーチも学ぶ事、遣り甲斐は言い尽くせないものがあります。

<御参考>スクール30周年行事（2017年）の際の私からの挨拶

- ・ラグビーは客観的に見れば、コンタクトスポーツの為、危険なスポーツとも言えるが、だから安全を最優先に腹を据えてやるもの。
- ・ラグビーは真剣にやればやる程、素晴らしいノーサイドが待っている。
- ・自分自身を振り返り、人の生きる道（生活、学校、会社等）と同じと考える。

3. 現状

・前回2019年RWCの影響から、幼児・小学生・中学生で約160人

(10年前の倍以上)。以前は生徒募集で苦労していた時期もあった。卒業生たちは女子日本代表（15人制、7人制）、トップリーグ、大学、高校、中学と色々なピッチで活躍中。